

## 往来物

往来物とは、平安後期から明治初期まで、広く使用された初等教科書の総称です。往来とは本来手紙のやり取り、往復書簡を意味していて、平安時代には手紙を束ねて模範文例集としていました。やがて教科書用に書簡を編纂するようになり、さらに、単語集や短文集等、手紙の形式を離れたものも作成されます。当初は貴族や武士の子弟の教育のために、日常生活や儀礼、諸行事に関する文例が多く用いられていました。

江戸時代に、寺子屋等の教育制度が発達し庶民層にも教育が普及してくると、職業教育・道徳教育・一般教養等、庶民を対象とした様々な往来が数多く作られました。また、女子専用の往来も各分野にわたって多数作られ、とくに女子教訓を趣意とする『女今川』や『女大学』等は明治時代になっても作られ続けました。平安後期から明治期までに7000種以上も編まれたという往来物のうち、約1000種が女子用往来といわれています。

今回の展示では女子用往来を中心に、本学で所蔵する往来物の一部をご紹介します。

平成17年10月－11月 学習院大学図書館

1. 女四書藝文図會 4冊 天保6年(1835)刊  
〔請求記号 旧105/2 (大学図・東庫)〕  
江戸時代前期の女子用の教訓書は、中国大陸で編まれた女訓書を輸入していた。明暦2年(1656)刊の『女四書』は中国の經典を翻訳した仮名書き女訓書を代表するもので、『女誠』、『女論語』、『女孝経』、『内訓』を意識抄録している。  
本書は、明暦2年刊『女四書』の本文に和漢の風俗図を加えたもの。挿絵が豊富で、上流階級だけでなく町人風俗も描かれている。色刷り模様の表紙や色刷り口絵等、凝った装丁である。
2. 女四書 7巻7冊 明治14年(1881)刊  
〔請求記号 旧105/4 (大学図・東庫)〕
3. 曹大家女誠和解 紀正毅注 文化9年(1812)刊  
〔請求記号 旧105/7 (大学図・東庫)〕  
曹大家著『女誠』を平易な和語に翻訳したもの。
4. 女今川  
〔請求記号 旧105/10 (大学図・東庫)〕  
『女今川』は江戸時代中期以降において女子の教養書として普及し、寺子屋で使われた。「今川状」の形式で作られていて、その類書も多い。
5. 女今川岸姫松 内山山陰著 弘化4年(1847)刊  
〔請求記号 旧105/22 (大学図・東庫)〕

\* まめちしき①「今川」 \*-----\*\*

室町時代に武人としても文人としても有名だった今川了俊(1325-1420)が養子の仲秋に書き遺した戒めを今川状といいます。のちには「今川」といえば、「今川状」をさすようになり、「今川」は教訓書の代名詞となって、江戸時代には道徳教材・習字の手本として使われました。『女今川』は「今川状」の形を踏襲して女子用に作り変えたものです。

\*\*-----\*\*

6. 改正女大学實文庫 貝原益軒著 明治14年(1881)刊  
〔請求記号 旧 105/24 (大学図・東庫)〕  
『女大学』は『女今川』とともに江戸時代中期以降に普及した女子教訓書で、最も広く使用された女子用往来物。

7. 女訓：一名・一新女大学 萩原裕著 明治11年(1878)刊  
〔請求記号 旧 105/9 (大学図・東庫)〕  
新編『女大学』の一つ。西洋の新知識や新たな女性観を導入した部分もある。

8. 女庭訓往来倭絵抄  
〔請求記号 旧 105/25 (大学図・東庫)〕  
『女庭訓往来』は江戸中・後期に普及した、代表的な女子用往来。1月～12月まで往復2通、計24通の女文を収録している。年中行事の故実を主とする教養や女性の言葉づかい・心得等に重点置いて編まれたもので、実用本位の一般的な女用文章とは異なる。

9. 女雅俗要文  
〔請求記号 旧 332/15 (大学図・東庫)〕  
年始の文に始まる四季折々の行事、元服や婚礼などの通過儀礼、交際等の日常諸事の例文を集めた女用文章。

10. 小学習字 開化女用文大成 城頤拙著 明治10年(1877)刊  
〔請求記号 旧 332/41 (大学図・東庫)〕  
季節に伴う手紙や、日常生活の諸事に関する女子用消息文例を集めたもの。「洋学入門類の文」「博覧会誘引の文」など、近代的な例文が見られるほか、「請取書」「留守請取」など公民として必要な例文が盛り込まれている。

\* まめちしき②「おまけ記事」 \*—————\*\*

江戸時代の女子用往来の特徴に、付載記事の多いことが挙げられます。巻首や頭書、巻末に、用語解説や、様々な故事来歴から日常の知識に至るまで、多種多様な内容が一冊の往来の中に盛り込まれていたりします。このようなおまけの記事も当時の人々には貴重な情報源だったようです。しかし、明治期に入るとこれら付載記事は教材的な要素のものを除いて姿を消してしまいます。

\*\*—————\*\*

◇————— 女子用以外の往来物 —————◇

11. 新撰類聚往来 3冊 丹峯和尚著 慶安元年(1648)刊  
〔請求記号 旧 332/101 (大学図・東庫)〕  
室町時代中期に作られた往来。12双24通の手紙文より構成され、その間に神祇・仏事・漢学・人倫・職分・職業・衣食住・自然などの膨大な類別単語集団4105語を収録している。教材の庶民化・実生活化が著しい往来。

12. 消息文例 2巻2冊 藤井高尚著 文化2年(1820)刊  
〔請求記号 旧 332/7 (大学図・東庫)〕  
本居宣長の門人である国学者・藤井高尚の消息文例集。雅文の参考書・案文集となっていて、一般の用文章とは性格が異なる。

13. 書簡啓発 3巻3冊 高島清著 文政3年(1820)刊  
〔請求記号 旧 332/102 (大学図・東庫)〕  
漢文体書簡の書簡用語集ならびに書簡作法書。「書簡啓蒙」の別称もある。

14. 日本地理往来 2冊 松本正太郎算輯 小川伊典校正  
〔請求記号 旧 451/6 (大学図・東庫)〕  
日本各地の沿革や地名・地勢・物産などを五畿八道・各国別に紹介した往来。

《参考文献》

- ・ 小泉吉永編著『往来物解題辞典』（大空社、2001）
- ・ 石川松太郎著『往来物の成立と展開』（雄松堂出版、1988）
- ・ 天野晴子著『女子消息型往来に関する研究』（雄松堂出版、1998）

\*\*—————\*\*

「往来物」  
学習院大学図書館 10月－11月展示  
平成17年10月1日発行  
担当：整理課 生田